

平成29年度
芦安地区学校関係者評価委員会



(新緑・やまぶき祭：芦安小中合同合唱)

- 1 日時 平成29年8月30日(水)午後7:00
- 2 場所 芦安中学校多目的ホール
- 3 次第

〔司会〕芦安中教頭 丹澤 博

- (1) はじめのあいさつ (芦安中校長 石原 敬彦)
- (2) 役員選出
- (3) 委員長あいさつ
- (4) 話合い 進行：委員長
 - ① 芦安小学校前期学校評価について (小学校教頭 樋川和之)
 - ② 芦安中学校前期学校評価について (中学校教頭 丹澤 博)
 - ③ 芦安小中一貫校の取組について
 - ④ その他
- (5) おわりのあいさつ (芦安小校長 名取 昭彦)

芦安小学校学校関係者評価書（前期）

平成29年8月31日（木）
学校関係者評価委員会作成

第1回 芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：平成29年8月30日（水） 午後7時～8時30分

会場：南アルプス市立芦安中学校多目的ホール

参加者：学校関係者評価委員

委員長 森本 薫（芦安小中学校PTA会長、学校評議員）

副委員長 佐々木 健（芦安小中学校PTA副会長、学校評議員）

委員 清水 実（芦安子を守る会会長、学校評議員）

委員 伊東 隆雅（芦安地区保護司、学校評議員）

委員 清水 准一（NPO法人芦安ファンクラブ事務局長、学校評議員）

委員 三井 孝司（芦安窓口サービスセンター長、学校評議員）

委員 深澤 米男（南アルプス市議会議員、学校評議員）

委員 森本 章雄（芦安地区学校応援団代表、学校評議員）

学校職員（小学校）校長 名取 昭彦、教頭 樋川 和之、教務主任 興石 みさを
（中学校）校長 石原 敬彦、教頭 丹澤 博、教務主任 早川 武浩

1. 学校側からの提案された内容

- ① グランドデザイン、学校経営方針について
- ② 学校評価の方法について
- ③ 評価の全体的な傾向について
- ④ 前期教職員自己評価の結果について
- ⑤ 児童アンケートの結果について
- ⑥ 今後の学校経営・運営について

2. 協議された主な内容

- ① 前期自己評価の結果について
- ② 児童アンケートの結果について
- ③ 各項目の評価・達成状況・改善策について
- ④ 今後の芦安地区の教育のあり方について

3. 協議されたこと、質疑・意見

- ・ 小中一貫型とあるが、小中一貫教育へ移行していくのか。→小中一貫校へ向けての準備が始まっている。平成30年度には渡り廊下を建設し、小中学校を接続。平成31年度には小中一貫校としてスタートをする予定である。また、市教委では平成32年度以降、できるだけ近いうちに新たな学校のスタイルである義務教育学校にしたいと考えているようだ。
- ・ 児童アンケートにおいて、「困ったときに相談できる友達があまりいない、いない」と回答している児童がいたことが少し残念である。1人でポツンとしている子がいるのであれば、対応をしてほしい。学校側からは、子供が1人であるような場面はこれまでもなく、仲良くしている。しかし、友達に相

談できるような人間関係を、様々な教育活動や、その取組を通して、今以上につくれるように、子ども同士の「絆づくり」を意識して、よりきめ細かな指導をしていくことを確認した。

- これからも、少人数教育のメリットを生かし、校内研のテーマ『生き生きと自己表現ができる児童の育成』に向けて、話し合い、発表等の機会をできるだけ多くなるよう取り組んでいただきたい。また、「人間関係の固定化により、1人の意見に流されることがある」と記述されているが、だれもが自己表現ができるよう、より一層、きめ細かく指導・支援をしていただきたい。
- 「芦安郷育プログラム」を中心に、豊かな学習・体験活動が進められていることがうかがえるが、小中9年間を見通した、長期的な計画として進めていってほしいと考える。小中連携して取り組んでいると思うが、地域の魅力を、子どもたちにも伝えていくためにも、より一層力を入れていただきたい。
- 保護者への情報提供や情報公開がとても熱心に行ってくれていると感じている。先生方が意欲的に、学級通信等を作成し、情報を発信してくれていることに感謝している。HP等もリアルタイムな情報を発信し、これからも学校や児童のようすをできるだけ伝えていきたいと考える。小規模校の特権としてきめ細かな対応による学力の定着や生徒指導が出来るよう、地域の特色を活かした芦郷教育の推進をお願いします。
- 小中一貫校という話も出てきているが、さらに進めていただきたい。「小中一貫教育」とするには建物等の問題や、教職員の配置、教育課程等の課題がある。
- 地域と学校との近さが、芦安小中学校の魅力の一つである。ただ、地域の方たちは子供や孫が学校を卒業していくと、離れていく傾向もあるので、これからもいろんな人が関わる、関われるような学校づくりを目指してほしい。また、地区外の子供も多いので、地区外の子供や保護者と地域の連携もできるだけしていきたいと考える。

4. 分析・評価

地域と学校の近さや、少人数だからこそできる「きめ細かな指導」を生かした学校運営をこれからも「芦安郷育」の柱としながら、「生き生きと自己表現ができる児童の育成」に取り組んでいきたい。また、これまで同様、児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めることで、児童との良好な関係を築き、豊かな学校生活の推進も図りたいと考える。

一方で、「芦安郷育プログラム」については、学校行事の精選を図りながら、学習プログラムを組み、柔軟に教育課程に位置づけていきたいと考える。小中9年間で芦安のよさを認識し、芦安を語り、他に発信できるグローバルな児童生徒を育成するため、これまでの実践（財産）を継続するとともに、英会話科中心に新たな展開を目指す積極的な提案・チャレンジを推進していきたいと考える。これからも地域の人々とふれ合ったりすることで豊かな感性や実践力を、より一層はぐくんでいきたい。

今回、芦安地区学校関係者評価委員会において、全体的には調和のとれた教育活動が進められていることが確認できた。一方で、課題として挙げられた点については、これからも力を入れて取り組んでいきたいと考える。

芦安地区学校関係者評価委員会 会則

〔名称及び事務局〕

第1条 この委員会は、「芦安地区学校関係者評価委員会」という。

第2条 この委員会の事務局は芦安小学校及び中学校内に置く。

〔組織〕

第3条 本委員会は、芦安小学校及び中学校に関わる地域の有識者の中から学校長が推薦し、南アルプス市教育委員会が委嘱する委員をもって構成する。ただし、両校の保護者を必ず含むものとする。

〔目的及び事業〕

第4条 本委員会は、学校の自主性・自立性に基づく教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を支援することを目的とする。

第5条 本委員会は、前条の目的を達成するために、年間において前期・後期各1回の委員会を開催する。ただし、必要と認める時には、学校長の招集により臨時に委員会を持つことができる。

第6条 本委員会は、各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を基に、学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、次の観点で評価することを基本とする。

- ・自己評価の結果の内容についての検証
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策についての検証
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等の検証
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みの検証

〔役員〕

第7条 この会には、次の役員をおく。

委員長（1名）、副委員長（1名）、事務局（小学校及び中学校内に各1名）

第8条 役員を選出は次による。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、本会を代表し、会議の座長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時にはその職務を代理する。
- 5 事務局は各校教頭があたり、庶務を司る。

〔守秘義務〕

第9条 本会の委員は、役職上知り得た秘密について守秘義務を負う。退会後も同様とする。

〔附則〕

この会則は、平成20年9月1日より施行する。